

ながししま造形美術展開幕間近

10月17日から開幕する「ながししま造形美術展」。今年は、第30回国民文化祭かごしま2015関連事業として開催されることから、どの団体も精力的に制作に取り組んでいます。今回、2自治公民館の制作風景を紹介します。

高さ約5メートル!!

「地方創生長島町は昇龍」

塩追自治公民館

2頭の大きな昇り龍が複雑に絡み合ったその姿は圧巻。

大石正和公民館長は「造形展の年と分かっていたので、数人

で早めに構想は練っていた。地方創生と全国で言われ、本町にも地方創生担当の副町長が就任した。長島町がこの昇り龍のように、地方創生の目的を達成できるように願いを込めて制作している」と話しました。

制作を始めたのは、8月23日から。まずは、養殖いけすの枠を土台にして、骨組みを2週間ほどかけて溶接し、その後、鱗や皮膚となる部分を貼り付けていく作業を進めていきました。



↑足組も3段にしなければ作業できない大きさ

雌雄2頭の龍の鱗はそれぞれ、杉の枝を薄く切ったものと、カキの殻を使い分け、それを一枚一枚丁寧にワイヤーで留める作業に時間を要していました。さらに、皮膚の部分は竹の皮を使い、手足の部分は松の木の皮を使うなど工夫を凝らしています。

龍の頭の部分は、形が複雑で骨組みの制作にも苦労していました。2つの龍頭を担当した中村幸二さんは「皆で制作に取り掛かる1カ月前から、頭の部分は作り始めていた。納得のいく形になるまでとても苦労した。塩追は例年大きい造形物を作っている。運搬のときにいつも電線避けるのに苦労しているの



↑2つの龍頭を手がけた中村幸二さん



↑鱗を一枚一枚丁寧に貼り付け

で、道路にある電線をもう少し高くしてもらえば」と冗談めかしていました。溶接作業をしていた中村鉄工所から鱗などの張り付け作業をする塩追自治公民館までの運搬は、サイズが大きすぎてユニック車は利用できず、フォークリフトで移動。方向転換などには、人間の力が必要で約20人で2時間かけ運搬したとのことでした。

造形美術展会場への搬入に苦労が予想されますが、これも造形美術展の風物詩として、町民の皆さんを楽しませてくれるのではないのでしょうか。

全長約8メートル!!

「ジンベエザメ」

潟自治公民館

ジンベエザメの周囲には常にイワシやカツオなどの大小の魚が群れ、古くから漁師には大漁の吉兆として知られてきました。「潟集落の環境がもっと良くなるよう願いと希望を乗せてジンベエザメを作ろう」と2年前から決めていた」と話してくれたのは、吉川秀記自治公民館長。制作を開始したのは、8月1日から。しかし、材料の一つの竹の皮は劣化が早いため、6月の中旬から材料集めをしていたとのことでした。

まずは鉄筋で骨組みを作り終えると、下地となる板を張り付けていきました。その後、集め



↑竹の皮を一枚一枚丁寧にカット



↑胴体内部は鉄筋と番線でしっかり固定



↑貝殻が接着中に落ちないように一つずつ仮止め



↑全長8mとジンベエザメそのもの

た竹の皮を張り付ける作業へと進みましたが、曲がった竹の皮を一枚一枚平らな板に乗せて重しをかぶせ一晩寝かし、それを張りやすいサイズにカットしていく作業が一番苦労したとのことでした。張り終わった竹の皮の上に、ジンベエザメの模様となる、カラス貝やヒオウギガイを接着剤で固定していきます。カラス貝のサイズも接着する場所によって使い分け、接着後も乾かないうちに落下することを防ぐために、側面や下腹の部分は一つ一つ固定するなど妥協しない姿勢に感服するばかりでした。

吉川公民館長は、「8月から制作に取り掛かり、休んだのは、盆休みくらいだった。十人弱と取材した2つの自治公民館だけではなく、町内の自治公民館や各小中学校、PTA、各種団体の力が並ぶ「ながししま造形美術展」は10月17日にいよいよ開幕します。

長島の町人伝説をぜひ、ご覧ください。

いう少ない人数で、これだけ大きなジンベエザメを制作した。目指すは入賞すること」と話しました。